



# 日本果実加工株式会社

勤務先が倒産するも、そこで培ったノウハウを資本に一念発起。創業者は食品会社を立ち上げ、福島県の白河に竣工した製造工場をベースに果実の搾汁で果汁メーカーとしての地歩を築いた。現在は果汁の各種加工処理の分野でも高い信頼を獲得、徹底した品質管理の下デザート製品の製造にまで事業を展開する。

11月とは思えないほど強い日差しの日、東京蔵前にある日本果実加工株式会社の本社を訪問し、杉山順一郎代表取締役社長、石橋良江総務部主任にお話を伺いました。



杉山 順一郎代表取締役社長

## 会社の創業から 白河工場の竣工まで

同社は現社長の父君、杉山五朗氏が設立しました。五朗氏が大学卒業後に勤めた果汁会社が倒産したため、紆余曲折を経ながらも昭和47年に船橋市の自宅で、奥様とともに日本果実加工を創業しました。創業当初は香料をブレンドする仕事メインでしたが、当時は果汁産業の黎明・拡大期だったことから、技術屋でアイデアマンだった五朗氏はビュレや果汁などを製造する果実加工に軸足を移し事業を拡大。53年には東京営業所を設置。また59年には福島県白河市（当時は西白河郡東村）に念願の自社工場を竣工しました。福島県は当時より白桃の一大生産地であり、すでに会社の主力製品であった白桃果汁を製造する上で原料調達上のメリットがあったことから当地にターゲットを定め、地元自治体の工場誘致もあり果汁工場を竣工するに至りました。

## 果汁の搾汁から 各種加工処理へ

同社の主力製品は果実飲料などの原材料として使用される濃縮果汁になります。果汁は通常、傷つくなどして生鮮食品として売り物にならない規格外の果実を搾って作られますが、搾ったままのストレート果汁では大部分が水分のため運賃や保管賃がかかります。このため水分を蒸発させストレート果汁の4〜6倍に濃縮した果汁で保管することにより、運賃・保管賃を大幅に軽減させたのが濃縮果汁です。実際に原材料として使用される際には、蒸発させた水分を加えるなどして元の濃度（甘さ）に戻して使用されます。よく100%ジュースなどに書かれている濃縮果汁還元とは、このように濃縮果汁を水で還元して作られたものをいいます。濃縮果汁は果実飲料の原材料となるだけでなく、チューハイなどのアルコール飲料やゼリーなどの菓子類、アイ

## デザートをはじめとした さまざまな事業展開

製造する果汁は前述した桃・りんごの他にも、いちごやブルーベリー、メロン、人参やライチなど非常に多岐にわたり、また、弾力的・機動的な生産により少量生産も可能にするなど、果汁メーカーとして全国200社を超える食品関連会社と取引するに至りました。平成10年にはナタデココなどのパウチ詰めやジャムなどのデザート品の製造も可能な果肉加工工場を竣工した他、14年5月には創業者のご子息である杉山順一郎氏が社長に就任しました。その後も19年8月には船橋の本社と東京営業

## 原発事故と風評被害

順調に経営を続けていた矢先、平成23年3月に東日本大震災および福島第一原子力発電所事故が発生しました。幸いにも社員やその家族は無事で、白河工場もタンクの留め金が緩んだり、製品が倒壊して破損、廃棄する等の被害はありませんでしたが、壊滅的な被害は免れました。

JFP 日本果実加工(株)のいろいろな製品

■日本果実加工株式会社のホームページ  
URL <http://www.Nihonkajitu.co.jp/>  
果実屋さんの手造り工房



日本果実加工(株)の製品

しかしながら原発事故により、福島県産果実（白桃、りんご等）が原料の果汁はさまざまな風評被害を受け、売上に多大な影響が生じました。幸いにも福島県産以外の果汁の取り扱いも多く、またその引き合いも増加したことから経営的に大事に至ることはありませんでしたが、

## 新工場の竣工 新しいステージへ

そのような状況ではありませんでしたが、今回の原発事故を受け補助金制度が創設されたことを契機に、長期的な事業継続と製造環境の向上を勘案して新工場の建設に着手、昨年の6月に竣工しました。既存の工場と合わせ生産能力は倍増し、さらなる生産量の増大に向け準備が整いました。また新工場といったハード面だけでなくソフトの充実を図る観点からFSSC22000の認



▲ももの洗浄

## 食事には野菜を多く 花壇の手入れも楽しみ

証取得に向け現在取り組んでおり、今春には認証取得の予定です。今後ともハード・ソフトの両面でさらなる充実を図り、経営理念である「お客様と社会に新しい価値と感動を提供し、自らのより良い豊かな生活を実現させよう！」の実践・実現に取り組んでいく方針です。

社長に健康管理について伺うと、野菜を多くとる食事を心掛け、プールやゴルフ等の運動で体重を調整、体調管理に気を付けているそうです。趣味を伺うと最近では自宅庭の花壇の手入れやゴーヤのグリーンカーテン栽培で休日を通り越しているとのこと。きれいな花が咲くとうれしく、家人や通学中の小学生にも褒められて気分も穏やかになるとのことでした。

当健保組合の保健事業の人間ドック、インフルエンザ予防接種は被保険者・被扶養者の多くの方にご利用いただいています。工場のある白河は車社会のためウォーキングはなかなか参加が難しいとのことでした。今後も保健事業を皆さまの健康維持の一助としてご利用いただきたいと思います。

◆◆◆  
お忙しい中、杉山社長、石橋主任には長時間にわたる取材にご協力いただき、誠にありがとうございます。

貴社のますますのご発展を祈念申し上げます。



▲白河工場（新工場）外観